

野田 九条通信

2012年3月 75号
「野田・九条の会」事務局
TEL 7122-0502
野田九条の会ホームページ
<http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/>

大震災、原発事故から1年 **3.11 全国での脱原発集会**

東日本大震災、福島第一原発事故から1年目の3月11日、集会やデモなどの取り組みが行われます。野田・九条の会もこの大変な事態に、1年間放射能の学習会や映画会を行い、原爆と同じ放射能汚染を引き起こす原子力発電に対し、脱原発1,000万人署名に取り組みました。3月11日各地で行われる集会やデモ、学習会へ行ってみませんか。

- ★3.11 原発いらない！福島県民大集会 3月11日（日）13時 福島県郡山開成山球場
(松戸からバスが出ます。お問い合わせ 7129-4297 田口)
- ★3.11 東京大行進 3月11日（日）14時 日比谷公園中幸門集合
東電前、経産省前を通り永田町社会文化会館までデモ
- ★3.11 原発ゼロへ！国会囲もうヒューマンチェーン 3月11日（日）16時 地下鉄永田町駅前
社会文化会館前から国会議事堂エリアを囲みます。
- ★講演会「子どもたちを放射能から守る！小児科医の見た福島 山田真先生に聞く」
3月11日（日）14時～柏市中央公民館4階集会室



田中正造から学ぼう

野田九条の会は、4月8日栃木県足尾銅山跡、旧谷中村などを訪ね、生涯をかけ足尾鉍毒事件と闘った田中正造に学ぶ旅を企画しました。田中正造の徹底的に住民の立場に立ち権力と闘ったその精神を学び、震災や放射能汚染、沖縄米軍基地問題など主権者を踏みにじる現在の日本の中で私達がどう行動していったらよいかのヒントになるのでは・・・と考えました。旅に先立ち、勉強します。

☆ 3月10日（土）10時～12時 櫛のホール4階研修室

田中正造に学ぶ。NHK「日本人は何をを考えて来たのか、～田中正造と南方熊楠～」を見た後、「足尾鉍毒事件と田中正造」について富村友子さんがレポート、みんなで学び合います。

☆「田中正造に学ぶ」バスツアー

4月8日（日）7時半出発 18時帰着



まず、足尾銅山の精錬による鉍毒を溜めるため、廃村にさせられた旧谷中村跡（現在渡良瀬遊水地）を訪ねます。チュウヒが舞う広大な葦原は、今年ラムサール条約に登録されることです。谷中村跡はその中心にひっそりと守られています。歴史を刻み、後世に残したい自然です。館林の「田中正造記念館」ではNPO団体の方から田中正造について説明を受け、当時反対住民が東京に抗議行動に向かう拠点であった雲龍寺も訪ねます。そして足尾銅山跡をじっくり見学します。ちょうど春の始め、お花も見えるかもしれません。ご家族、お知り合いを誘ってご参加ください。別紙申込書に記入してお早めに事務局まで。

今月の予定

☆野田・九条の会定例会

3月10日（土）10時からの田中正造学習会
終了後1時間程度定例会議です。

場所：櫛のホール4階研修室

☆ビデオ上映会

4月1日（日）13時30分～16時

DVD上映会「キャタピラー」

場所：南部梅郷公民館

野田南地域9条の会主催

九条の眼

田中正造と谷中村

正造直訴復の世論の高まりを受け設置された「第二次鉱毒調査会」の報告は、鉱毒の沈澱と、渡良瀬川・利根川の洪水を防ぐために渡良瀬川下流域に遊水池を設置するという計画案で、「鉱毒問題」の「治水問題」へのすりかえでした。これを受けて1904年(明治37年)栃木県は、度重なる洪水による鉱毒被害に悩まされ続け、本来救済されるべき谷中村を遊水池とし廃村とすることを決定してしまいます。正造は「利根川が渡良瀬川に逆流するようになったのは、関宿の棒だしを挟めたからであるから、これを抗げれば遊水池を作る必要はない」と廃村阻止の闘いを決意し、1904年(明治37年)谷中村に移り住みます。

しかし生活が困窮していった谷中村では、県による買収工作や反対運動の切り崩しにより、近隣町村や那須、北海道などへ移住する人が増えていきました。強制的な土地買収や立ち退き命令をあくまで拒否し、反対運動を続けていた残留民19戸も1907年(明治40年)には、強制収用によりすべての建物を破壊され裸にされてしまいます。それでもなお、残留民は寒さも雨風もしのげない仮小屋に住み、国家による理不尽な立ち退き強要と度重なる暴風雨と洪水との闘いを命懸けで続けていったのです。

正造は、彼らを悲惨な状況から救うべく一度は移住の提案をするのですが、人の住めない土地と化した村にのみ留り理不尽な廃村を拒否する村人の覚悟ときづなうたれ、教えられ、1913年(大正2年)73歳で斃れるまで、谷中村の一百姓としてその生存権の回復を求める闘いを続けました。

ツクリノアイス

犠牲 “美化”の目眩まし
— 一直近版・あかずきんちゃん気をつけて—
野田南地域九条の会 小堺俊彦

「こんなでは選挙に勝てねえべ…」と、まるで狼が羊の皮をかぶるような豹変ぶり。なかには退場するやからもいたそうですが、ともあれ県内原発すべての廃炉を求めた住民請願を採択し福島県議会的一幕です。

保守王国の名をほしいままに政府、東電のばらまく札束に酔いしれ踊り狂ってきた権勢者たちの右往左往する狼狽ぶりはインソップ物語「あかずきんちゃん」話をおもわせました。

ただ、かれらがどこまで羊の皮をかぶりとおせるか見ものです。

なぜなら羊という美化あるいは一種の掩飾、つまり「安全、効率」そして「福祉」に金を注ぎ反対しにくい空気を巧みに作り、美しく化粧をし直し、悲劇の犠牲を覆い隠すいっぽうで、不況のご時世とばかりに財界、大手マスコミ、ご用学者によってじわじわと「脅し」が盛んになってきたからです。いわく産業衰退、雇用環境悪化、国際競争力減衰、電力不足、将来不安…。

豹変した保守系議員さんもわたしたちも、この板挟みに締め上げられたら、さてどちらを選ぶだろうか、目眩ましに対抗できるだろうか…。そんな思いにくよくよしていた矢先、昨年夏の「ヤスクニ集会」でおこなった高橋哲哉(東大教授)さんの「3・11が露にした日本の病巣—原発・ヤスクニという犠牲のシステム」講演記録を読み、狼たちの犠牲になるだろう悩める羊、私にとってとても啓示的内容でしたので一筆啓上におよびました。

「…犠牲のシステムでは、或る者(たち)の利益が、他のもの(たち)の生活(生命、健康、日常、財産、尊厳、希望、等々)を犠牲にして産み出され、維持される。犠牲にする者の利益は、犠牲にされるものの犠牲なしには産み出されないし、維持されない。この犠牲は、通常、隠されているか、共同体(国家、国民、社会、企業、等々)にとっての『尊い犠牲』として美化され、正当化されている。

たとえば、ヤスクニというシステムは、植民地帝国としての日本国家を建設し、維持し、拡張していくために、敵対する人々を殺戮し、その過程で戦死した自国の兵士の死を「尊い犠牲」として正当化する「犠牲のシステム」であり、原発主義はフクシマ・放射線汚染地域、日米軍事同盟はオキナワ、ひいては日本国民の犠牲のシステムの上に成り立っている。」

高橋さんのいう、共同体のための「尊い犠牲」に、いま子どもたちと教職員が曝されようとしています。その最たる典型が大阪維新の会が進める「大阪教育条例案」です。知事の命令をきかない教師を罰則によって排除するというもの。これはいったい何のため、だれのためなのでしょう。

明治維新は尊皇のためでした。北朝鮮ではあるまいにっづつとします。犠牲のない民主・平和世界建設に立ち向かっていきたいものです。